

緑化樹木の情報

緑化通信

2023
6月25日
(年6回25日発行)
第499号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: <https://www.ueki.or.jp/> E-mail: honbu@ueki.or.jp
購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

ミックス
紙に責任ある森林
管理を支えています
FSC®
www.fsc.org
FSC® C008422
環境に配慮するため
FSC®森林認証紙を使用しています。



連絡調整会議

5月25日(木)13時から協会会議室にて連絡調整会議を開催した。出席者は会長、副会長、専務理事、部会担当理事、専門部会長及び事務局で、対面16名、Zoom3名、欠席者1名。

会としても是正に取り組んでいるところです。
会員が増えるといった妙案はありませんが、今後の発展も頑張っていって欲しいと考えます。青年部からも同様の意見が出ていました。

各地で街路樹の伐採が徐々に増え、新規の植栽工事が減少している。国交省等と新しい管理省力化可能な技術を開発する事業を行ってほしい検討しては?

サポート会員に対しての特典を考える必要もあり、正会員との差別化も含め検討したいです。

年部の皆さんには是非とも頑張っていって欲しいと考えます。青年部からも同様の意見が出ていました。

良いブロック事業があれば、本部を通して他ブロックへ紹介させて欲しいです。

ロック単位で活発に活動できるようにしては。

協会員の生産数量状況は現在でもスマートフォンで検索ができます。供給可能量調査委員会ではより簡便に生産数量のネット検索ができるよう約し、新たなシステムを構築中で、日々運用を開始する方針です。

ルポ

シリーズ 社園さん紹介

No.17

野口農園

野口農園(福岡県朝倉市)

今までも“継続は力なり”、これからも“継続は力なり”

ポット生産一筋で、家族6人と従業員さん6人で頑張っている野口農園さん。平成29年の朝倉市豪雨でご自宅も地元も大変な思いをしても、“継続は力なり”を貫いて続けることで、その“力”が、“大きくなる”ということを今回の取材で教えてもらいました。



左から社長の野口利浩さん、会長の利男さん、4代目となる雅浩さん



広いコンテナ圃場



山苗の畠 ヒノキ・マツ



野口農園の皆さん 右下から社長の野口利浩さん、奥様の真由美さん、岩佐さん、4代目となる雅浩さん、直樹さん、右上から草場さん、会長の奥様の瑞枝さん、栗秋さん、宮原さん（植木さん、松本さんは、本日はお休みでした）

従業員の皆さん

栗秋さん

勤続17年で、週末も野菜作りをしていて365日、土や植物と向き合っています。出荷準備の時は、この子（植物）はどこに行くのかな。大きく育って欲しいな。とか考えながら出荷準備しています。

草場さん

勤続10年で庭の手入れが好き。

岩佐さん

植物が好きでここで働き始めて18年。ナツハゼが一番好き。四季を感じて仕事が出来ることが一番。風、光、鳥の声など、会社勤めでは味わえない大事なものが、ここには沢山あって自然と共に生きています。

宮原さん

勤続3年ですが、先輩に教えてもらいながら楽しくお仕事させてもらっています。

皆さんの趣味

利男さん：「カラオケと旅行です。カラオケの定番は北島三郎、細川たかしさん。海外旅行は27回、15カ国行きました。国内は、全国制覇まで3県だったので、平成29年に孫たちと行って制覇しました」。すごいです！

利浩さん：「下手だけどゴルフ。同級生や飲み仲間と由布高原とかでゴルフすることが楽しみの一つ」。

雅浩さん：「景色のきれいな所を旅行して写真撮ることが好き」。

真由美さん：「妹や娘と一緒に御朱印集めだったですが、孫が増えて今は一旦休憩です」。

直樹さん：「アウトドア全般でキャンプも釣りも大好き。昨年12月に生まれた子どもと一緒にに行けたらいい」。



三女さんの旦那さんも転職でこちらに？

直樹さん：「今まで一般企業で営業と配達の仕事をしていたのですが、“緑はいいなー”と感じて緑で地域を盛り上げようと思い転職してきました。まだ、夏場の暑さを経験していないのですが、今は緑と関わって楽しく仕事をしています」。パパになりたての直樹さん、ますます気合が入っていますね。



雅浩さん、これからは生産は？

雅浩さん：「最近はLINEで注文が入ることもあります。FAXだと事務所に戻って確認しなくてはいけないですが、記録に残りますし、畠で完結出来るので便利です。時代に合わせて新しいことを取り入れつつ生産に取り組んでいきたいです。生産者としていい苗を作っていくないと、肝に銘じています」。



水は山の水が湧く地下水。立地場所も重要で、ここは条件に恵まれているそう。スプリンクラーが順に回って夏場には、毎朝チェックしている。

今日はナンテンのポットの植え替え。手作業で3、4千個のポットの規格を上げている。

この大きな木製の中には、土が入っている画期的な大きな建具。従業員の栗秋さんの旦那さんが大工で作成してくれたもの。全面で8人座れて作業が出来て、大きな座布団をひいて、たまにおしゃべりやラジオを聴きながら作業をしているそう。



少花粉挿しスギ
(10月にマルチキャビティコン
テナに直接挿し木したもの)



豪雨で建て替えた新しい自宅の事務所の壁は、一面磁石。
誰が見ても分かるようにマグネットで出荷依頼のFAXが貼ってある。

その水害で何か変わったことは？

利浩さん：「変わることはないです。“継続は力なり”で、“続ける”しかありません。同じことの繰り返しだけですが、それは大切なことです。続けていくと、今まで出来なかったものが出来たり、早く作業が出来たり、見えていなかったことが見えてきます。確かにこれは“続ける事は大事”。続けてきたからこそ、うちの歴史も70年があり、100年を目指すことが出来るのです」。

雅浩さん、卒業後はどのように？

雅浩さん：「東京農大を卒業して埼玉で修業していました」。

利浩さん：「雅浩は、まんまと東京農大に入学させる戻にひっかかったんです！」(笑)

令和4年度 秋の静岡県浜北地方観察研修

(次号8月号では令和5年度の東北観察をお送りします)

委員長 古川 和生(古川庭樹園・大阪府)



令和4年9月28日㈬
→29日㈭に静岡県の浜北地方に30名の参加で
視察研修を行いました。

1日目の1番目の浜

名湖ガーデンパークさ

んは、植物管理担当者

の原田様に案内して頂

き、参加者が全員展望

塔に登り、浜名湖の景

色を眺めながら説明を

して頂きました。

2番目の視察先の有伸松

園さんは、圃場には仕立物

のイヌマキ、カラシマキ、

クロマツ、ゴヨウマツ等の

手頃なサイズから樹高6m

位のものまで生産され、丁

新苗、新たな樹種生産に意欲

的に取り組まれていること

がうかがえました。

3番目の視察先の有植英

さんは、緑化樹のコンテナ

生産が主であり、園芸店、

ホームセンター向けの新樹

種生産を行っておられるこ

ともあり、圃場を遠目で見

てもとても色鮮やかでし

た。種類も豊富でどれも手

入れが行き届いており商品

の状態も良いと思いま

し、モクセイ、サンゴジュ、

モチノキ等を多数生産され

ておられるが、剪定も一本

一本丁寧に行っておられる

ことが印象的でした。

4番目の視察先の有植英

さんは、緑化樹のコンテナ

生産が主であり、園芸店、

ホームセンター向けの新樹

種生産を行っておられるこ

ともあり、圃場を遠目で見

てもとても色鮮やかでし

た。種類も豊富でどれも手

入れが行き届いており商品

の状態も良いと思いま

し、モクセイ、サンゴジュ、

モチノキ等を多数生産され

ておられるが、剪定も一本

一本丁寧に行っておられる

ことが印象的でした。

5番目の視察先のヤマキ

物の技術で有名な静華園様

の圃場は、大、中、小、多

数のイヌマキ、クロマツ等

生産の圃場を観察させて頂

きました。柑橘類が40種類

以上、カキ、イチジク等の

落葉果樹や接ぎ木台木とし

て使われるカラタチの圃場

もありました。特に病害虫

による悪影響を防ぐため、

定期的に防除、除草作業を

行っておられることが多く、

管理の行き届いた圃場

でした。また、日本でもま

だ珍しいチャンドラボメロ

と呼ばれる大きな実の柑橘

でした。

6番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

7番目の視察先の地元生

産者のタケヨシ様は、主に

芽摘みをする木が傷むの

影響で高温になると木が傷むの

い時期であってもアン

デスノオトメ、サルビ

ア、リコリス、スイレ

ン、アザサ、その他沢

山の草花を観察すること

で、小畠さんの仕立てに対

する思い入れがよく伝わっ

てきました。

8番目の浜北地区で仕立

物の技術で有名な静華園様

の圃場は、大、中、小、多

数のイヌマキ、クロマツ等

生産の圃場を観察させて頂

きました。柑橘類が40種類

以上、カキ、イチジク等の

落葉果樹や接ぎ木台木とし

て使われるカラタチの圃場

もありました。特に病害虫

による悪影響を防ぐため、

定期的に防除、除草作業を

行っておられることが多く、

管理の行き届いた圃場

でした。

7番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

8番目の浜北地区で仕立

物の技術で有名な静華園様

の圃場は、大、中、小、多

数のイヌマキ、クロマツ等

生産の圃場を観察させて頂

きました。柑橘類が40種類

以上、カキ、イチジク等の

落葉果樹や接ぎ木台木とし

て使われるカラタチの圃場

もありました。特に病害虫

による悪影響を防ぐため、

定期的に防除、除草作業を

行っておられることが多く、

管理の行き届いた圃場

でした。

9番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

10番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

11番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

12番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

13番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

14番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

15番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

16番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

17番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

18番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

19番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

察研修を行いました。

シックツリーは、参加者も

大に伴い、増産を行って

おられた。

20番目の視察先の(株)山佐

の庭さんは、現在は造園工

事を主軸としておられ、視

協会記念植樹贈呈事業 R4年度

令和4年度の記念樹贈呈事業の小学校では、2件実施されましたのでご報告します。

東京都世田谷区立代田小学校（東京都）

令和4年2月22日、世田谷区立代田小学校の校庭に協会会員の梅田園（東京都）の梅田富夫氏によって1.5m程の河津桜2本、八重桜1本の卒業記念植樹が世田谷区立代田小学校PTAの主催のもと53名にて行われました。記念樹の目的として、①コロナ禍で行事が相次いで中止となり、卒業時には思い出に残るイベントをしてあげたい。②卒業記念として学校に木を植える事で、卒業生、在校生、地域の方々と共に木と子どもたちの成長を見守りながら繋がりを深めていきたい。③学校内の桜が病害虫等で本数が減ってしまったので、校庭の緑化を促進したい。以上の要望を頂き、植木協会で無償で実施しました。植樹1年後、卒業生や在校生等の皆さんが、とても喜んでくださったご報告とお写真も頂きましたので紹介します。



1年後の芽吹いたお写真



東京都世田谷区立若林小学校（東京都）

令和4年3月、世田谷区立若林小学校の校庭に協会会員の梅田園（東京都）の梅田富夫氏によって2.5m程の神代曙サクラ1本の卒業記念植樹が世田谷区立若林小学校PTAの主催のもと70人の生徒と一緒に行われました。協会として、世田谷区立若林小学校もコロナ禍で行事が中止となることが多かったことより、小学校の思い出として、また、これからも学校に出向いた時に皆さんで成長を楽しんで欲しいと思っています。



日本列島植木植物園 ナショナルプランツコレクション*

梶の葉と茶の湯「雲悠久々水漏々」

ナショナルプランツコレクション*

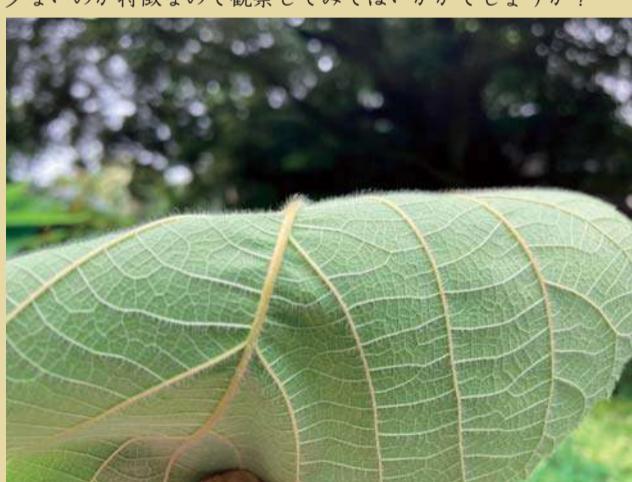
問 山崎隆雄 (株)ワイズプランツ(埼玉県) ☎ 048-875-2155

裏千家流では、夏のお点前に、水差しの蓋の代わりに梶の葉を乗せた「葉蓋の扱い」という作法があるという。

七夕茶会の趣向で、末廣籠のおどしを水差しに見立て、梶の葉を蓋として使ったことが始まりだそうです。それにカジノキの葉を用いるのは、乞巧奠や七夕で、短冊に使われていたことに由来といわれています。このように茶の湯においても、カジノキは重要な役割を担っていることがうかがえます。

さて、カジノキの仲間には、よく似たコウゾとヒメコウゾがありますが、これらは、しばしば混同しているように見受けられます。

それら三種は、葉柄の長さや毛の様子で見分けることができる。カジノキ→コウゾ→ヒメコウゾの順に葉柄が短く、毛の量が少ないのが特徴なので観察してみてはいかがでしょうか？



カジノキ葉裏



カジノキ



カジノキ葉柄



カジノキ枝



カジノキ托葉



コウゾ



コウゾ葉柄



コウゾ葉裏



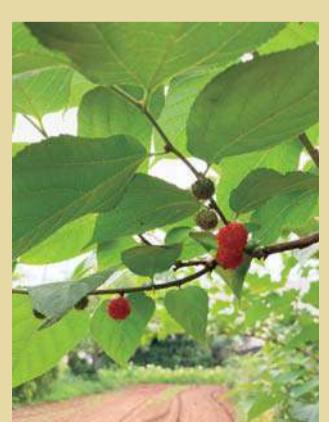
ヒメコウゾ葉裏



ヒメコウゾ枝



ヒメコウゾ葉柄



ヒメコウゾ果実

連載「西欧自然環境保全の旅」第2回

なぜオランダの平地の林が国立公園として残ったのか? 実業家夫婦の夢

滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授

上河原 献二



◆プロフィール
1984年東北大法学部卒業、環境庁入庁。
2013年より滋賀県立大学環境科学部環境政策・計画学科教授として、環境法・環境政策を教える。現在は、侵略的外来生物管理法制度など自然保護法制度の国際比較を中心に研究。

オランダの国土は、ご承知のとおり平坦ですが、国土の約10%が森林です。特に東部には森林地帯と呼ばれる地域があります(Mohren & Vodde, 2006)。そこには、オランダの国立公園で二番目に古いデ・ホーヘ・フェルウェ(De Hoge Veluwe)国立公園があります。なぜ平坦で人口密度の高いオランダで平地の林が国立公園として残ったのでしょうか?

第一の理由は、その地域の土地が農業利用に余り向いていなかったということです。林床の更に下はやせた砂地です。そのため、林を切り開いて農地にしても、薄い表土が風に吹き飛ばされて、砂地がむき出しになってしまいます。デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園のあちらこちらに開けた砂地を見ることができます(写真①)。それは、私が子供のころの瀬戸内の、風化した花崗岩の丘陵にまばらに松とススキが生えていた景観とよく似ています。つまり農業開発に失敗した結果の荒れ地が広がっていたということになります。19世紀にはオランダの森林は、東部のやせた土地に残って、国土のわずか2%となり、裕福な人々の狩猟場となっていました(Mohren & Vodde, 2006)。デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園も、もともとは海運業で成功したアントン・クレラーとヘレン・ミュラーの夫妻が、20世紀の初めに狩猟場として土地を買い集め、邸宅を建てた場所だったのです。

それではなぜ、そのような私有地が国立公園として残ったのでしょうか? 夫妻は、1909年から狩猟場として土地を取得し、次第にその面積を拡大していました。現在の公園面積は5500haで、新宿御苑(58ha)の100倍ほどです。そしてフェ



写真① 開けた砂地

ンスで土地を囲い込み、シカ、イノシシなどの狩猟獣を導入しました。また、邸宅を建て、美術品を収集しました。しかし、1923年以降の経済不況の中で、夫妻が資産を維持していくことは難しくなっていました。土地と美術品を保全するためにつくつもの関係者との交渉が持たれ、その結果、土地は1935年に設立された民間の「デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園財団」にオランダ政府の支援を受けて売却され、美術品はオランダ政府に寄贈されて、やはり政府の支援によって美術館が建てられることになりました(Nijhof & Pelzers, 2014)。美術館は、公益団体「クレラー・ミュラー美術館財団」により管理されています(<https://krollermuller.nl/en/anbi-status>)。こうして、実業家夫妻の築いた財産は、国立公園と美術館として一般に公開され維持されることとなりました。

デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園には、オランダ東部の小都市アペルドールンから、バスに乗って30分ほどで行くことができます。バスの中で国立公園の入場券を買うことができ、ビジャーセンターまで乗車できます(写真②③)。入場券は、2023年5月現在12.3ユーロとなっています。2019年の同公園広報誌の記事によると、年間60万人(5万人の学校生徒を含む)の来訪者があったとのことです。私が訪れた2019年8月末も多くの方で公園内を散策することができます(写真④)。

デ・ホーヘ・フェルウェ国立公園は、二次的自然と美術館の組み合わさった里地のナショナルトラスト型国立公園とも呼べるユニークな存在です。別の言い方をすると、人手の加わった里地でも、工夫次第でこのように人々から愛され親しまれる存在になれることを教えてくれています。

参考文献

- Mohren, G.M.J. & Vodde, Floor. (2006). Forests and Forestry in the Netherlands. Forests and forestry in European Union Countries.
- Nijhof, W. H. & Pelzers, E. (2014). The Hoge Veluwe Book, WBOOKS.



写真② ビジターセンター前広場



写真③ ビジターセンター受付



写真④ レンタサイクルの利用者

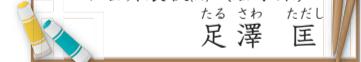
素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて～

⑯ノハナショウブ

小岩井農牧(株)(岩手県)

足澤 匡



自生する種より、葉が厚く、しっかりしているように感じました。まるで潮風に耐えることが出来るように・・・。植物には足が無く、簡単に移動できないために、その環境に順化して環境圧に耐える術(すべ)を会得しているのだと思います。植物の戦略、工夫にはいつも驚かされます。

ちなみに、「ノハナショウブ(野花菖蒲)」は、アヤメ科アヤメ属の多年草。園芸種である「ハナショウブ(花菖蒲)*Iris ensata* var. *spontanea*」の原種で、花弁の基部に黄色のすじが入る特徴があります。近種には、「アヤメ(綾目、文目)」「カキツバタ(杜若)」などがありますが、「アヤメ」は乾燥地、「ノハナショウブ」は湿地、「カキツバタ」は水辺(水の中)に生えますので、生育している場所によって、ある程度特定できます。園芸種である「ハナショウブ」は湿地へ湿気のある畑地を好み、明治神宮の菖蒲田や堀切菖蒲園などに植えられていますが、なぜか、花を観賞する時だけに水を張ります。イメージ的なものなのか、花の色合いが水とマッチするからでしょうか。また、アヤメ園、菖蒲田、花菖蒲園、カキツバタ園・・・など、基本的に「ハナショウブ」を観賞する園を指しますが、いろいろな名前を使うのはなぜでしょうか? 混同しちゃいますよね。「いずれ菖蒲(アヤメ)か、杜若(カキツバタ)」ですね。

さらに、端午の節句に菖蒲湯として使う香りのある薬草は、「ショウブ(菖蒲)*Acorus calamus*」。ショウブ科ショウブ属の多年草で、アヤメ科の植物とは全く異なる、目立たない花を咲かせます。葉は似ていますが、きれいな花を咲かせるので「ハナショウブ」と区別し、呼ばれるようになったのでしょうか。いろいろ書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。



岩手県久慈市侍浜にて


日本列島植木植物園

ナショナルプランツコレクション*

間清水洋樹 (株)清水植物園 (福井県)

シャクナゲ 'アンナローズホイットニー' ツツジ科ツツジ属学名: *Rhododendron 'Anna Rose Whitney'*

特徴としては、遅咲きの強健種で樹高は3.5m前後になります。花は濃いローズ・ピンクの巨大輪で男性の手のひら位の大きさです。発育は旺盛で、鉢植えや庭植えも向いており育てやすいです。

弊社の園内では、約2,000株のシャクナゲが鑑賞できます。大きいものは樹高4m以上あり、シャクナゲ園としては北陸最大級の規模です。4月中旬頃が見頃ですので、来年は是非見に来てください。



4月中旬の園内の様子

*ナショナルプランツコレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

連載「多肉・珍奇植物」**第3回 立ち上がる姿こそ観賞の醍醐味、ユッカ**

東京都市大学環境学部教授

飯島 健太郎



◆プロフィール
東京都市大学環境学部教授。桐蔭横浜大学工学部専任講師、同医用工学部准教授を経て現職。博士(農学)。日本造園学会賞／研究論文部門受賞、東京農業大学造園大賞受賞。著書:『新しい都市緑化・ガーデニング材料・多肉植物』(ソフトサイエンス社)、『サボテン大好き』(講談社)、『多肉植物の名前400がよくわかる図鑑』(主婦と生活社)、『サボテン全書』(監修、グラフィック社)、『多肉植物全書』(監修、グラフィック社)など。

放射状に密に展開する葉、それが時間をかけて立ち上がっていく様子に魅了される栽培家がにわかに増えてきた。風格あるフォルムに到達するまでに長期間を要するというのもビザールプランツの愛好者が対象とする植物の特徴であろう。その典型的な存在の一つがユッカの仲間である。

グーグルトレンド機能による検索傾向から「ユッカ」を調べてみると2016年にピークがきており、昨今のビザールプランツ・ブームの初期に来ていると見ることができる。その代表的な種類は、ユッカ・ロストラータであろう。

ユッカ属の植物は、北アメリカ大陸から中米にかけての乾燥地帯に分布し、約50種が知られている。アガベと同様、多くの図鑑ではリュウゼツラン科とされてきたが、昨今のAPG分類によりキジカクシ科に分類されている。葉の形状やロゼット状のフォルムなどアガベと共通する点が多いが、アガベは例外を除いて幹を形成しないのに対しユッカは成長に伴って幹を形成して立ち上がる事が特徴である。

北米の先住民は、ユッカの花や花茎、果実や種子、さらには根を食用や薬用に利用していたとされる。また葉や茎は繊維質であり、その繊維から衣料や日用品に加工されていた。樹液にサボニンが含まれており洗剤としても活用された。同様の有効成分を抽出した民間薬としての利用のほか、花、根、種子などを数百年も前から宗教的な用途として靈薬として利用してきたとされる。一方、幾何学的な姿は庭園材料としても人気があり、古くから海外のデザートガーデンに導入してきた。

わが国ではビザールプランツ人気以前からユッカを目にする機会は多く、明治期に導入された種類も多い。特殊樹として庭園や公園、学校などに植栽されてきた「ユッカ・グロリオサ(和名アツバキミガヨラン)」はお馴染みで、樹高は1m～2mと比較的低い。5～6月または10月頃に鐘のような黄白色の花が鈴なりに咲くので、華麗に空間を演出してくれる。都市緑化の場面ではシンボルツリー植栽ほか、大型のコンテナ植栽も見られる。一方、ユッカの仲間は観葉植物としての導入の歴史が長い。「青年の木」とも呼ばれるユッカ・エレファンティペスは、オフィスの装飾などに用いられるほか、ホームユースから贈答などの幅広い用途として重宝している。「朴もの」として、カットされた幹が輸入され、そこから新芽を発生させるため数本の枝分かれに仕立てられたものが目立つが、昨今では意図的にカットを繰り返してより多くの枝を発生させて風格ある姿に仕立てた「プランチ」と称するものが流通しており愛好家に好まれている。

近年、デザートガーデンの人気が再燃し、ビザールプランツ人気と合わせてユッカが導入されるケースが増えてきた。そこにはアツバキミガヨランが用いられる事ではなく、よりワイルドな風情をもつユッカ・ロストラータの背の低い株がしばしば植栽されるが、立ち上がった株をみることは少ない。本種は幹が直立し先端にシルバーブルーのシャープな葉が放射状、球状に茂るので株全体のまとまりがよくユッカの中では人気の頂点だ。非常に強健である一方成長が非常に遅く、立ち上がったものは大変貴重である。ロストラータ、リギダ、フィリフェラなど、葉の長さ、密度、立ち上がり時の幹の太さなど個体差を楽しむ向きもある。

ユッカの生産は、アツバキミガヨランなどが片隅で特殊樹として扱われていたほか、インドア・グリーン対象としてのエレファンティペスの鉢物が従前からしばしば見られたが、昨今ではビザールプランツとしてのポットものも積極的に生

日比谷公園のアツバキミガヨラン(*Yucca gloriosa*)の株立ち 鐘状の花が鈴なりに咲く

外構部のユッカを中心とした配植

年代物の立ち上がりが魅力的なユッカ・ロストラータ(*Yucca rostrata*)グラス類やアロエとともに配植されるユッカ・フィラメントーサ・バリエガータ(*Yucca filamentosa f. variegata*)

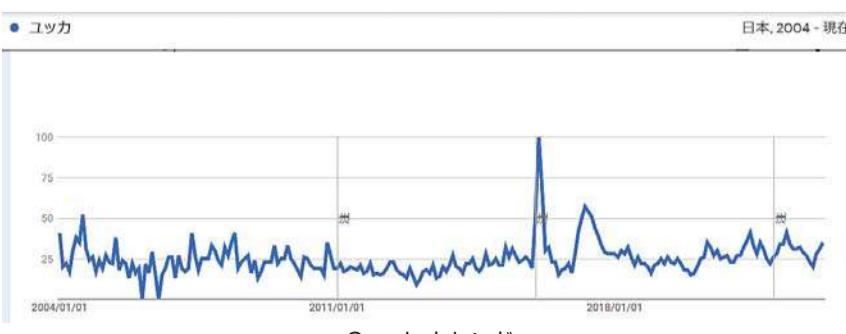
産されるようになった。これら鉢物やポットものは、園芸専門店以上に各地にあるホームセンターがその販路として重要な位置を占めている。なおデザートガーデン用、コンテナ用など大型のキセロフィルのみを扱う業者も増えており、生産体制にも多様化が見られる。

植栽可能域は概ね関東以西であるが、日当たりと水はけのよいことが条件となる。北関東あたりで越冬可能な種類、あるいは東北以南(最低-15°C程度に耐える)でも植栽可能な強健な種類もある。越冬性を勘案すると四方からの吹き曬しのある環境よりも、北風を避けた壁際、南向きの陽だまりのような環境が望ましい。

ビザールプランツ人気の中で、ユッカについても希少種を含む実生がしばしば行われており、今後バラエティ豊かな品種群の登場も期待される。けれどもユッカの仲間は鉢の中以上に、露地植え、とりわけデザートガーデンの配植の主役、あるいはシンボルツリーとしてその立ち上がりの特性を生かした栽培やハビタットの風景演出など、新たな時代の特殊樹としてその活用が期待される。

※朴もの: 太い幹を丸太状に切り分け、それを挿し穂として発根させ芽吹かせるもの。

※キセロフィル: 乾燥に適応したり、乾燥を好む植物の総称。



あなただけの本を作りませんか?



あなたの夢・あたためている作品を形にしてみませんか?
皆さまの本作りー準備から納本までー誠意をもってお受けします。



関東図書の
自費出版
KANTO TOSHO

関東図書株式会社

〒336-0021 さいたま市南区別所3-1-10
TEL 048(862)2901㈹ FAX 048(862)2908㈹
㈹0120-161092

<http://kanto-t.jp/>

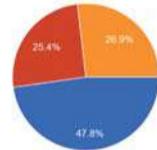
- ◆自分史・写真集・画集・歌集・句集・詩集・小説・随筆他をお考えの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。
編集スタッフが、お相手します。
- ◆ISBN(国際書籍コード番号)もとれます。
- ◆他にも、HP・動画・AR等、なんでもご相談ください。

協会オリジナル手帳アンケート結果

会員さんにより良く、使いやすい協会オリジナル手帳を作成するために、手帳アンケートを令和4年11月に実施したアンケート結果です。
このアンケート結果を元に来年の協会オリジナル手帳を作成致します。

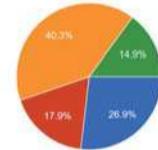
協会オリジナル手帳は活用していますか?

67件の回答



スケジュール記入欄について(複数回答可)

67件の回答



追加の白紙住所欄は必要ですか?

67件の回答

